

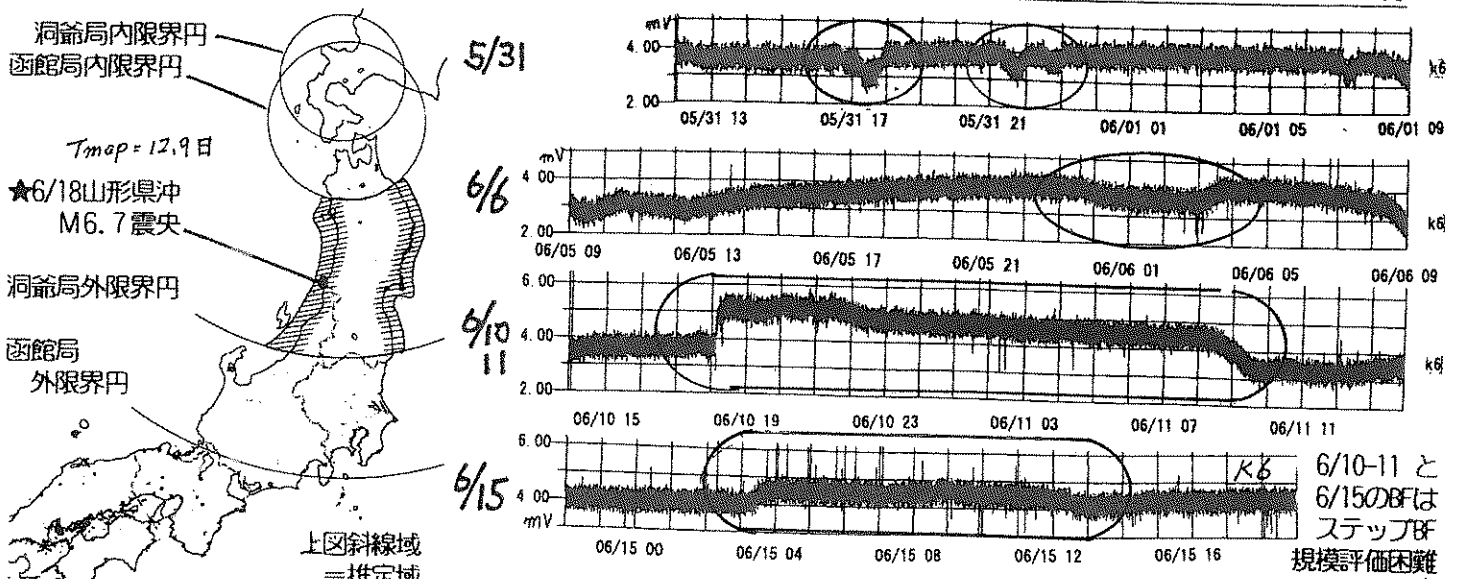
原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

参考

※本HPはPHP新書「地震予報」内に記したNo1778長期前兆について読者の皆様にごその後の前兆変化をお伝えするために有志の方が作成して下さっているHPです。ここではNo1778前兆以外の前兆については公開できません。今回山形県沖で中規模地震が発生致しました。これについては6/2以降、公開実験「地震前兆検知実験 観測情報配信」で登録の皆様にご中規模地震発生推定を報告配信致しました。(本続報でも6/2更新のNo265末尾に前兆検知可能中規模地震前兆一つ有と記しました)。結果としては規模が若干小さく評価されましたが、概ね良好ではありました。参考までに本日配信致しました結果報告の一部を下転載させて戴きます。なお、関東直下や南海トラフ等や他領域での大型地震(現在は前兆は観測されておりませんが)の前兆が仮に観測された場合でも現状は公開実験参加の皆様へのE-mail又はFAXでの情報配信のみでしか報告できません。本HPでは公開できませんことをご理解下さい。是非多くの皆様のご参加の公開実験へのご参加をお待ちしております。 ※No1778前兆の続報は次頁にあります。

6/18夜 山形県沖M6.7-14km地震発生→No3102前兆対応地震認識



No3102前兆 高知観測点K6BF地震前兆 5/31と6/6のBF前兆=函館局 6/10,15=洞爺局
5/31BF=6/2 No3102掲載 6/6BF=6/7 No3103掲載 6/10-11BF=6/14 No3104掲載 6/15BF=6/18 No3105掲載

5/31に徐々に高知

観測点K6観測装置に明確なBF地震前兆が観測され、函館局or新居浜局によるBF認識でNo3102観測情報に報告致しました。その後、右上波形のとおりが断続的に観測され、6/7のNo3103観測情報で、前兆が断続的出現のため、「海域地震」の可能性が高いことを報告致しました。当初は基線に対し下側凹みのBFしか観測されませんでしたため、逆局の伊豆局検知内限界内でありかつ函館局検知外限界内領域の可能性も考えましたが、6/10-11に逆向きのBF地震前兆が観測され、伊豆局又は洞爺局の検知領域内でもあることが判り、推定領域を修正。函館局+伊豆局、函館局+洞爺局 または新居浜局+伊豆局のいずれかの領域の沿岸海域又は陸域でも海岸に近い領域の可能性が推定されました。上図は函館局+洞爺局で求めた推定領域(伊豆局の場合は若干南側に広がるがほぼ同じ)です。斜線域は陸に近い海域と沿岸部陸域です。前兆が1基の観測装置のため、これ以上の絞り込みは困難でした。

◆前兆規模は直読(減衰無し)でM5.3±0.5、海域では沿岸海域の海深減衰考慮でM5.8±0.5を推定致しました。但しこれは初現前兆の5/31のBFを評価したものでした。実際は6/6の

BFの方が変動面積が単独で大きく、こちらを正しく評価すべきでした。6/6 BF=M5.5±0.5・海域ではM6.0±0.5推定。◆推定発生日は、6/7 時点=6/17±4 6/14時点=6/18±3 としましたが、6/18時点=6/21±4 としました。いずれも6/18の実際の発生日が推定時期に入ってはいますが、これらは各時点で5/31を極大と認識し、各時点の前兆を最終前兆として静穏期を使用して求めた発生日でした。正しくは、極大=6/6.0 終息=6/15.6 認識で、これでTmap:Tpp=3.9:1 経験則を使用して求めると、6/18.9±発生推定となります。

◆推定域=大枠では整合 推定時期=誤差内で整合 と云う推定と実際ですが、規模は最大でもM6.3までしか推定できず、実際のM6.7-14km(気象庁修正値)とはMで0.4も誤差がましました。6/6-BFのM6.0±0.5を使用してもM6.5±0.5が限界となり、M0.2誤差が生じます。メカニズムは逆断層で前兆が減衰する要素はありません。なぜM0.2~0.4も前兆が小さく評価されるのか、今後原因を探りたいと考えます。

今回の地震で被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。本日現在まで、6/15以降同等のBF前兆は観測されておりません。

※6/19更新時では右段上から4行目に誤記がありました。お詫びして訂正させて戴きます。(誤)6/19時点=6/21±4 ⇒(正)6/18時点=6/21±4 6/18の14時配信の情報では6/15のBFを受け5/31極大と認識して6/21±4の可能性としました。

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続前兆 続報 6/20±前兆終息の可能性低い見解  
7月初旬以降での発生可能性時期を検討

前続報ではNo.1778長期前兆の第25ステージの前兆動向から、前兆の一部が終息しないため、6/19~20時期の発生は否定されること、仮に6/20迄に前兆が終息した場合は6/23±の可能性も計算されるが、以降前兆が継続した場合は6月末以降となる可能性について報告させて頂きました。

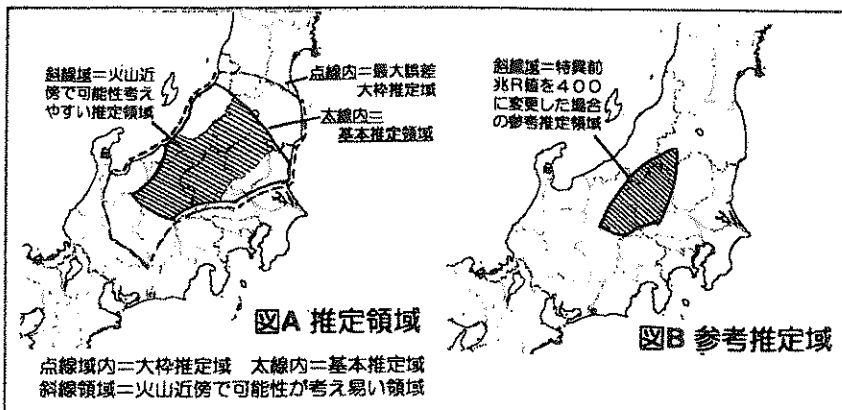
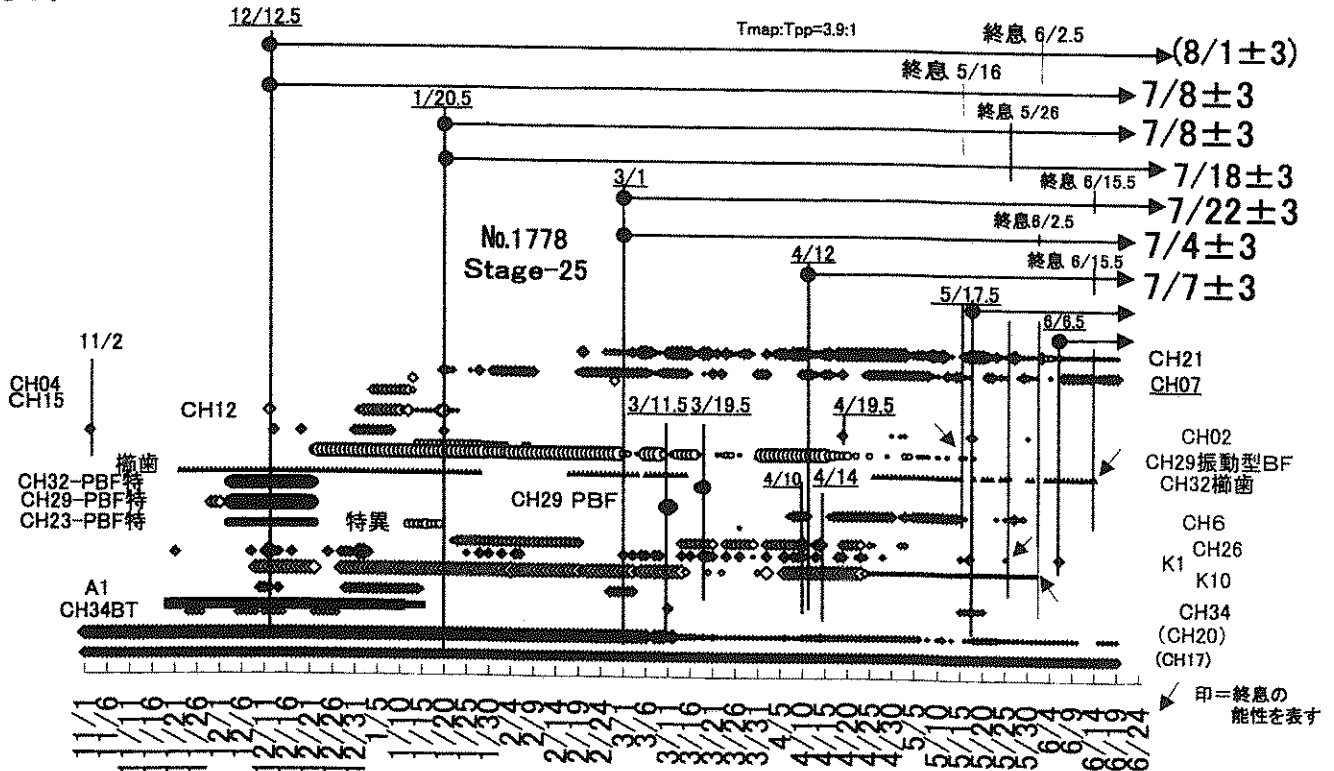
本日6/19夕刻現在、CH21=基線不安定のまま CH7=糸状特異が継続しております。このことから明日迄に前兆が終息する可能性は極めて低い見解です。従いまして今月中の発生の可能性は否定できます。

更に前兆の極大と前兆継続~終息の関係組み合わせを検討した結果、下図に書き込んだとおり、いくつかの可能性が検討できます。

- ①最も早い場合の可能性=7月 6日±3
- ②次に早い場合の可能性=7月20日±3
- ③最も遅い場合の可能性=8月 1日±3

となります。現在の状況からは8月1日は少々考え難い様ではありますが、今後の前兆変化を観測し、上のどの時期なのか、発生時期を求めたいと思います。現在の前兆に終息変化が認められましたら、計算できますので、変化がありました場合は、続報でご報告させて頂きます。

推定地震の内容及び根拠については続報No.266に4枚の資料を掲載しておりますのでご参照下さい。現在発生日のみ修正



- ◆推定領域：左図参照
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：前兆終息後推定予定 上本文参照

- ◇推定地震種：陸域地殻浅い地震火山近傍
- ◇推定発生時刻：午前9時30±1時間30分  
または午後4時±3時間